

施設マネジメントに関するベンチマーキング手法

1. 国立大学法人等施設の管理運営をとりまく状況

文教施設企画部参事官(技術担当)付

運営費交付金の縮減

教育等施設基盤経費は法人化以降 **約24億円縮減**

一方、法人化以降の国立大学法人の保有面積 **約90万㎡増加**

限られた予算の下、良好なストックの維持管理のため、施設マネジメントの推進が重要

●国立大学法人を対象に維持管理費の状況を調査・分析

施設の維持管理経費の投下状況

- 大学によって投下額は大幅に分散
- 特に投下額の多かった大学は、臨時予算が確保できたため一時的に高額となったものが大半

大学分類別の維持管理経費の投下状況

- 理工系大学及び教育系大学が高く、文化系大学及び総合大学が低い傾向
- 同じ分類の中でも個々の大学の投下額に大幅な差異

維持管理の取組に対する自己評価と経費の関係

- 予防保全については僅差で相関性は見受けられない
- 事後修繕及び修繕費の額は、自己評価が高いほど若干ながら減少の傾向

施設の維持管理予算等に関するアンケート結果

- 約半数が国からの予算は維持管理に必要な額に達していないとの回答
- 約3割の大学では、施設担当部署が国からの予算措置額を把握していないと回答
- 施設の機能水準の確保状況について、半数が事業運営に支障をきたす恐れがあるとの回答

●既存施設の有効活用のうち、若手研究者の研究スペースの確保状況の観点から状況を分析

若手研究者の研究スペースの確保状況

- 若手研究者の数が大きくなるほど確保率が下がる傾向であるが、2000人以上を擁する大学では確保率が高い

2. 施設マネジメントにおけるベンチマーキングの導入

●国立大学法人等におけるベンチマーキングの実施方法について解説

※今回提示するベンチマーキングの手法は、他大学の業務プロセスを解析し、業務改善の自助努力を促すための「プロセスベンチマーキング」とする。



●ベンチマーキングを実施する際に比較対象を抽出するためのベンチマーク指標と、その活用方法を提示。

指標として、以下のグラフを提示

- ①維持管理費（9項目に分類）
- ②財務諸表からの維持管理比率
- ③環境報告書からのエネルギー使用量
- ④既存施設の有効活用状況

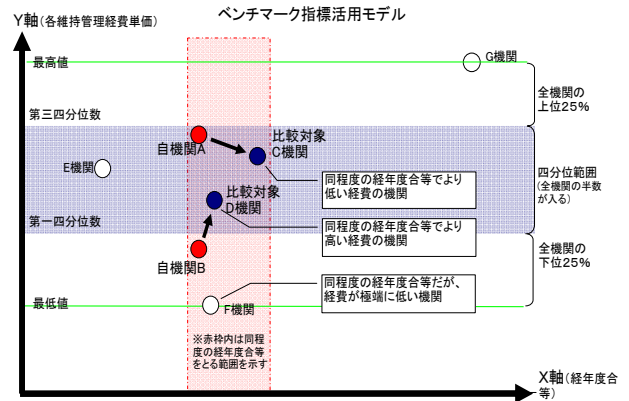
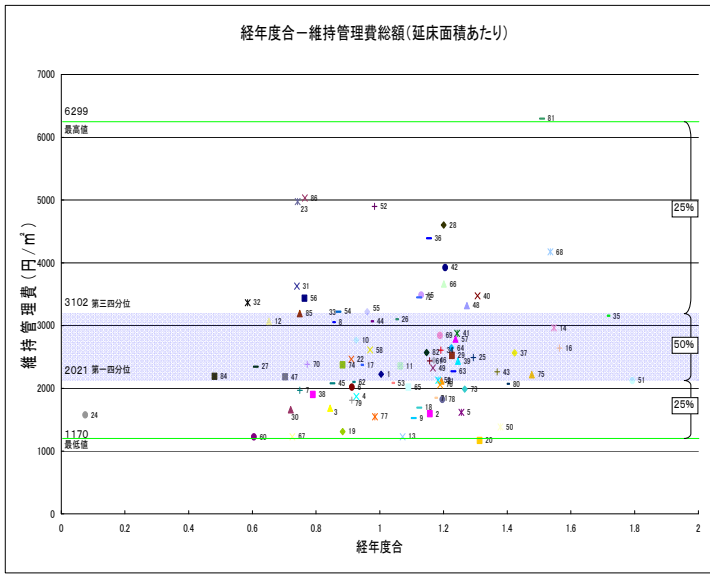
※比較対象の抽出に当たっては、本指標から得られる情報に加え、法人評価や施設の維持管理に対する取組等を勘案した総合的な判断が必要。
 ※施設の維持管理におけるベンチマーキングの目的は、適切な維持管理を行うことで施設の機能水準や利用者満足度を低下させないことにあり、コスト縮減のみを意図したものではないことに留意。

3. 効果的なベンチマーキング実施のための課題

- 今回ベンチマーク指標として施設運営コストを示しているが、経費の多寡にとらわれず、具体的な取組やその成果として施設の機能水準や施設利用者の満足度が低下していないか等についても十分に考慮する必要がある。
- 国は、ベンチマーキングの導入促進のため、グッドプラクティスやベンチマーク情報を提供。ベンチマーク情報としては、メンテナンスバックログや残存不具合率などに加え、エネルギー使用量やスペースマネジメントについても今後検討。

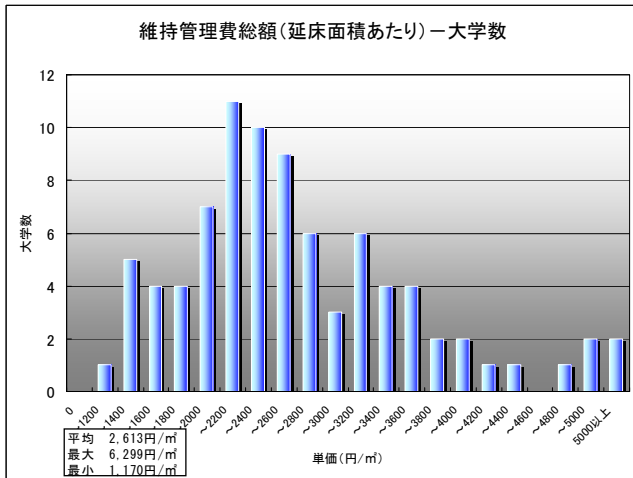
ベンチマーク指標として示すグラフの例

①経年度合等一維持管理単価(散布図)

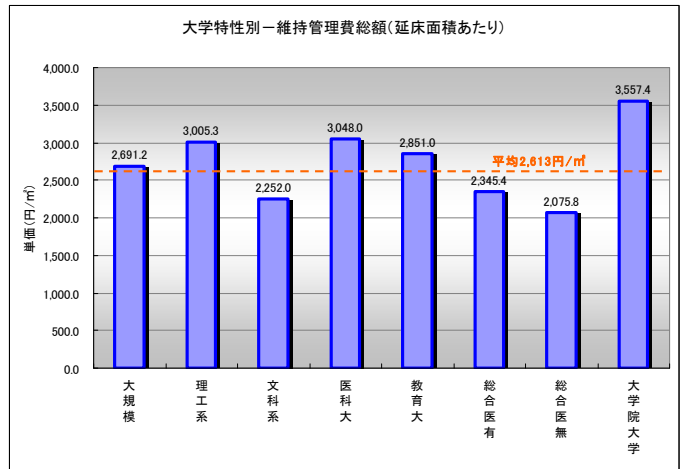


- ・経年度合等が同程度の機関としては、B機関、C機関、D機関がある。
- ・D機関は自機関Bに比べ経費が高額となっているが、施設水準の維持や利用者満足度の点で十分な成果が得られているとの観点から、経費を投入した場合の充足した維持管理といった視点でのベンチマーキングの対象とすることが考えられる。
- ・C機関は自機関Aに比べ経費が多少低額となっているので、同程度の維持管理となっているか、もしくはより節約できる工夫があるのかといった視点でのベンチマーキングの対象とすることが考えられる。

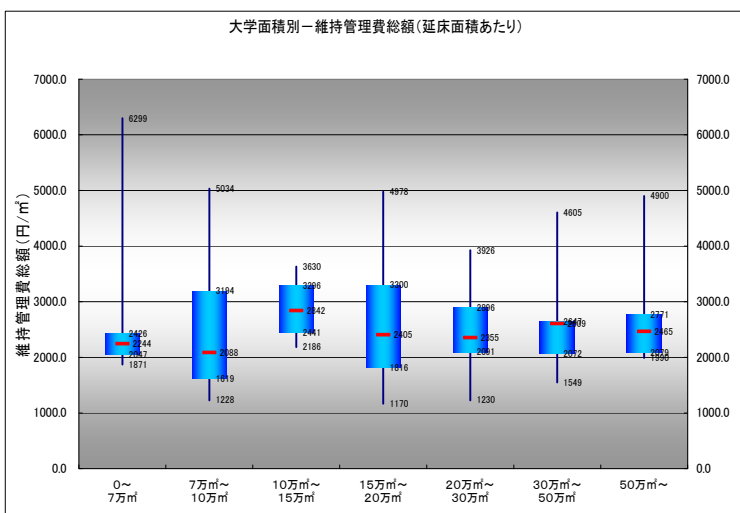
②各維持管理単価一大学数



③大学特性別一各維持管理単価



④大学面積別一各維持管理経費(箱ひげ図)



- ・色づけた箱の上限・下限は四分位数を示し、箱の内側に全機関の50%が含まれる。
- ・ひげの上限・下限はそれぞれ最高値・最低値を示す。
- ・赤線はそれぞれの中央値を示す。中央値とは、それぞれの面積分類で中央の順位になる大学がとる数値のことである。